

第22回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表 各事業者の新しい取り組みへの努力が具体化

多チャンネル放送研究所（所長：音 好宏）では、第22回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。本調査は、同研究所が（一社）衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送市場の現状と見通しについて年2回実施しているものです。

本調査では、『現状』、『1年後』、『2年後』という3つの時点について、会員各社が多チャンネル放送市場の動向をどのように捉えているかを調べています。調査時点が2018年6月で、『1年後』は2019年前半、『2年後』は2020年前半になります。

今回の調査では、ここ数回の調査結果同様、加入者の見通しについては、自社チャンネル、多チャンネル放送全体ともに厳しい傾向が出ています。

衛星系プラットフォームを中心に将来に向けて厳しい市場を予測する事業者が多いものの、やや下げ止まり感も見えてきました。さらには、視聴料収入などについての予測などでは、下げ一辺倒の傾向から少々変化が見えてきています。さらに、前回同様、「その他事業収入」が増加していくという事業者が増えていくという点からも、各事業者の新しい取り組みへの努力が具体化しつつあることが推察される結果となりました。

多チャンネル放送研究所では、今後も定期的に本調査を実施する予定です。これらが会員各社における多チャンネル放送市場への経営戦略に資することが出来れば幸いです。

なお、調査結果については当研究所ホームページでも掲載しているので参照下さい。

→ <http://www.eiseihoso.org/labo/release.html>

調査結果の概要

1. 自社チャンネルの加入者動向については、「減少」が徐々に拡大

自社チャンネルの全体的な加入者動向について、『現状』、『1年後』、『2年後』いずれも「減少」がもっとも多く、49.4%→51.7%→55.2%と徐々に拡大している。「増加」とする見方は『現状』の17.2%から『1年後』、『2年後』の19.5%に僅かながらも拡大しているが、全体としては悲観的な見通しが半数以上を占める結果となっている。

前回調査（2017年11月）と比較して、『現状』については「大幅増」が1.1ポイント、「増加」が0.2ポイント拡大し、「減少」が4ポイント縮小、『1年後』についても「増加」が2.5ポイント拡大し、「減少」が2.8ポイント縮小と好転している。しかしながら『2年後』については、「増加」が3.2ポイント縮小する一方、「減少」が1.8ポイント拡大しており、足元ではやや改善の見方が拡大するも、将来的には厳しい見方を強めていることがわかる。

2. 多チャンネル放送全体の加入者動向では、見方が分かれる

多チャンネル放送の全体的な加入者動向としては、『現状』、『1年後』、『2年後』いずれも「減少」が約7割を占める結果となった。「増加」が『現状』の1.1%から、『2年後』に5.7%と若干の上向きを見せているものの、「減少」の見方は拡大しており、前回調査同様に極めて厳しい結果となった。

前回調査（2017年11月）と比較して、『現状』においては全体的に大きな変化はなく前回とほぼ同様の割合となったが、『1年後』においては、「横ばい」が7.7ポイント縮小する一方、「減少」が6.5ポイント拡大しており、やや減少に振れる結果となった。また『2年後』については、「横ばい」が4.4ポイント縮小し、その分「増加」、「減少」がそれぞれ2.3ポイント、1.9ポイント拡大し、見方が分かれている。

3. 視聴料収入は現状よりやや厳しめとの見方に

視聴料に関して、『現状』は、「大幅増」が前回（17年11月調査）はじめて0%となったが今回も同様となった。ただし「増加傾向」は前回の14.8%から18.4%となり低下に歯止めがかかった。「横ばい」は前回の26.1%から28.7%と微増。「減少傾向」は前回の59.1%から52.9%へと減っており、減少との回答が過半数ではあるもののこれまでの流れに変化が見られた。

『1年後』の予測では、「大幅増」は前回同様0%、「増加傾向」が前回の17.0%から16.1%へ、「減少傾向」が前回の56.8%（うち「大幅減」1.1%を含む）から56.3%へと微減であり、増加・減少がやや縮小予測の一方で「横ばい」が前回の26.1%から27.6%へと微増する結果となっている。

『2年後』の予測については、「増加傾向」が前回の23.9%から18.4%へ減少、「横ばい」が前回の21.6%から26.4%へと増加、「減少傾向」が前回の54.6%（うち「大幅減」2.3%含む）から55.1%（うち「大幅減」1.1%）へと微増であり、未来予測は現状よりやや厳しめとの見方となっている。

4. 今後の広告収入の将来を前向きにみる事業者が多い

『現状』では「横ばい」が41.4%と最も多く、次いで、「減少」が24.1%と「増加」の14.9%を上回っており、厳しい見方をする事業者の方が多い。

一方、今後に関しては、「減少」とみる事業者は、『1年後』25.3%、『2年後』24.1%とほとんど変動はないものの、「増加」は、『1年後』に17.2%、『2年後』19.5%と上昇しており、今後の広告収入については、前向きにみる事業者が増えている。

なお、「該当事業無」と回答した広告未実施の事業者が『現状』で17.2%存在していることについても留意されたい。

5. 「その他事業収入」の将来に期待する事業者が多い

『現状』では「横ばい」が41.4%と最も多く、次いで「増加」が27.6%、「減少」が8.0%となった。「横ばい」とみる事業者は、『1年後』32.2%、『2年後』27.6%と減少する一方、「増加」は『1年後』36.8%、『2年後』40.2%と伸びており、『1年後』以降では「横ばい」を抜いて最も多い回答となっている。「減少」は『1年後』『2年後』とも9.2%と大きな変動はなく、将来に期待する事業者が多い結果となった。

なお、「該当事業無」と回答した事業者が『現状』で21.8%存在していることについても留意されたい。

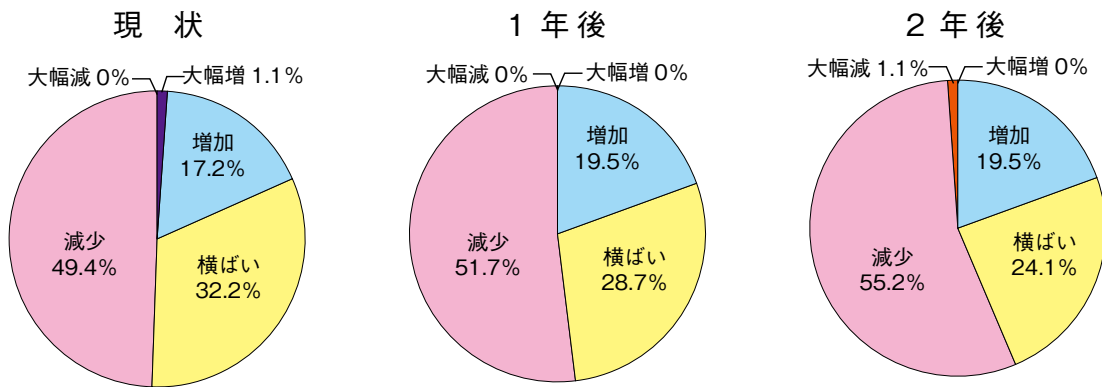
調査の概要について

1. 調査時期 2018年6月
2. 調査対象 衛星放送協会正会員社の有料チャンネル（87チャンネル）
3. 調査方法 webによる回答・回収法
4. 回答回収数 87チャンネル
5. 回答回収率 100%

調査結果詳細

1. 自社チャンネルの加入者動向

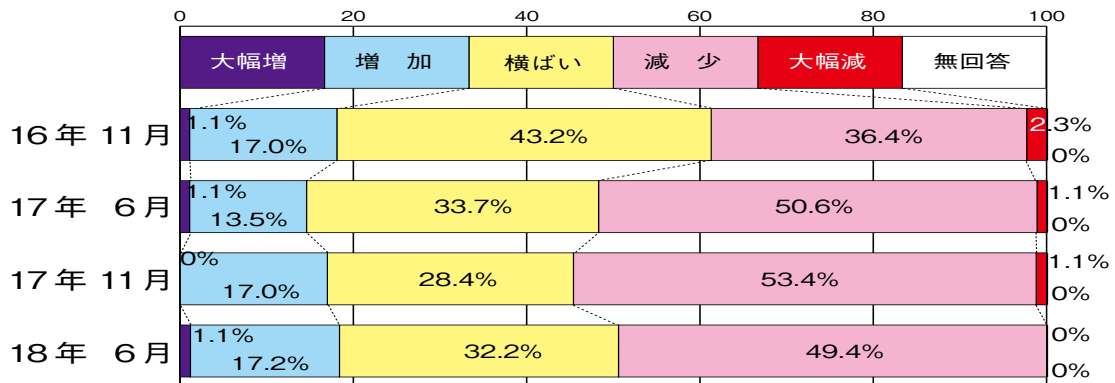
自社チャンネルの全体的な加入者動向について、『現状』、『1年後』、『2年後』いずれも「減少」がもっとも多く、49.4%→51.7%→55.2%と徐々に拡大している。「増加」とする見方は『現状』の17.2%から『1年後』、『2年後』の19.5%に僅かながらも拡大しているが、全体としては悲観的な見通しが半数以上を占める結果となっている。



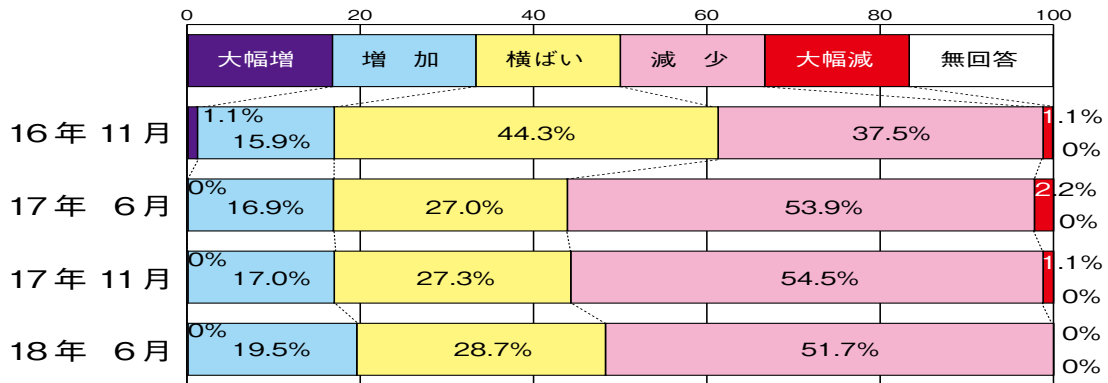
2. 自社チャンネルの加入者動向予測推移

前回調査（2017年11月）と比較して、『現状』については「大幅増」が1.1ポイント、「増加」が0.2ポイント拡大し、「減少」が4ポイント縮小、「1年後」についても「増加」が2.5ポイント拡大し、「減少」が2.8ポイント縮小と好転している。しかしながら『2年後』については、「増加」が3.2ポイント縮小する一方、「減少」が1.8ポイント拡大しており、足元ではやや改善の見方が拡大するも、将来的には厳しい見方を強めていることがわかる。

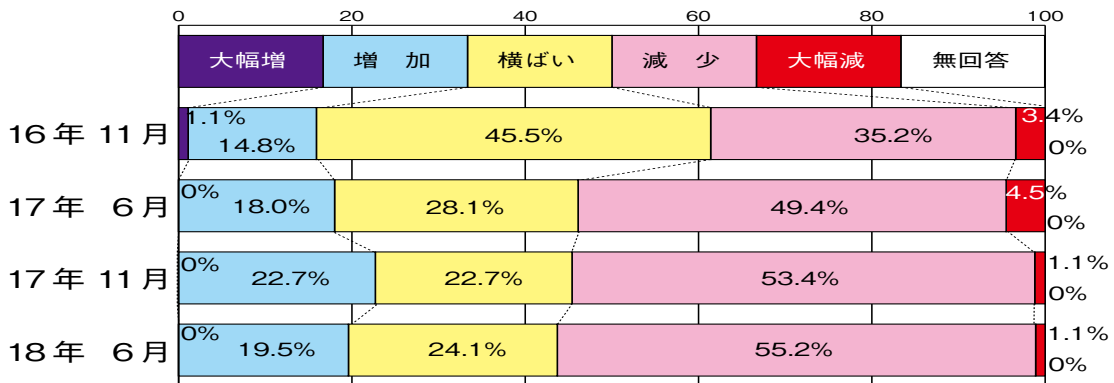
自社加入者数予測(現状)ー前回調査との比較



自社加入者数予測(1年後)ー前回調査との比較

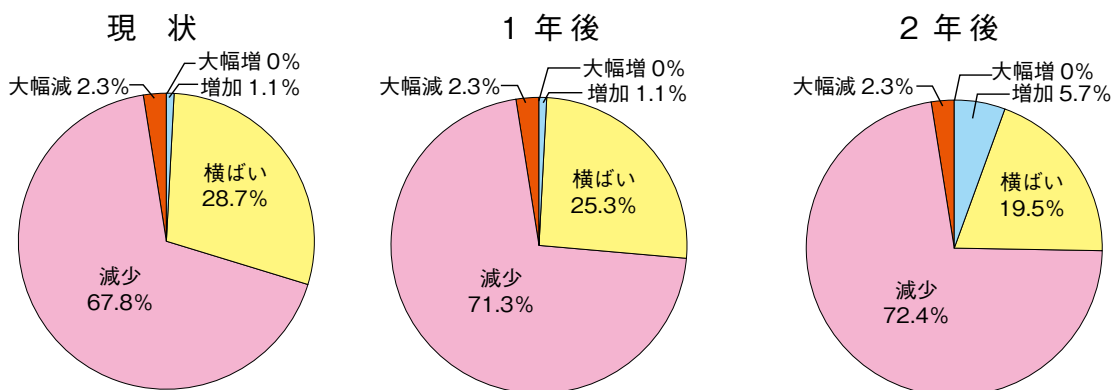


自社加入者数予測(2年後)ー前回調査との比較



3. 多チャンネル放送全体の加入者動向

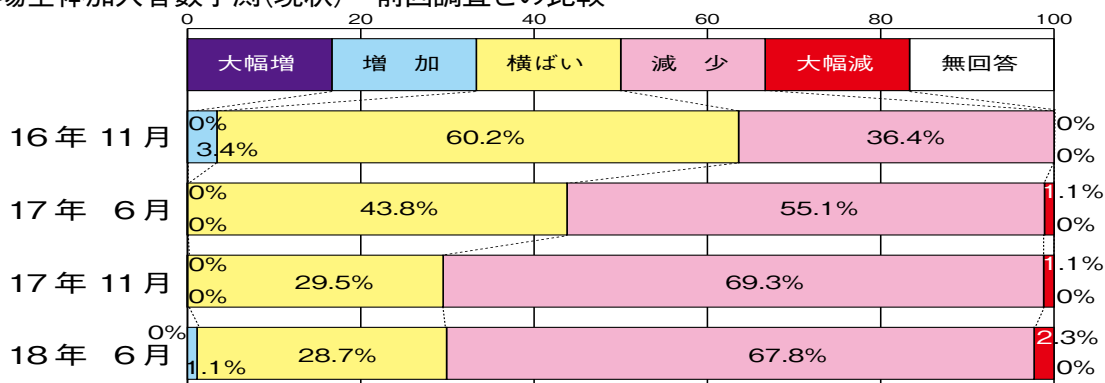
多チャンネル放送の全体的な加入者動向としては、『現状』『1年後』『2年後』いずれも「減少」が約7割を占める結果となった。「増加」が『現状』の1.1%から、『2年後』に5.7%と若干の上向きを見せているものの、「減少」の見方は拡大しており、前回調査同様に極めて厳しい結果となった。



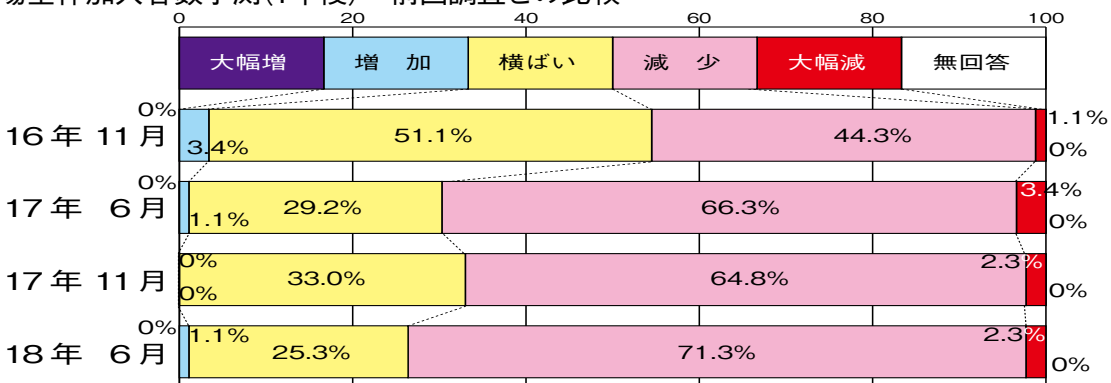
4. 多チャンネル放送全体についての予測推移

前回調査（2017 年 11 月）と比較して、『現状』においては全体的に大きな変化はなく前回とほぼ同様の割合となったが、『1 年後』においては、「横ばい」が 7.7 ポイント縮小する一方、「減少」が 6.5 ポイント拡大しており、やや減少に振れる結果となった。また『2 年後』については、「横ばい」が 4.4 ポイント縮小し、その分「増加」、「減少」がそれぞれ 2.3 ポイント、1.9 ポイント拡大し、見方が分かれている。

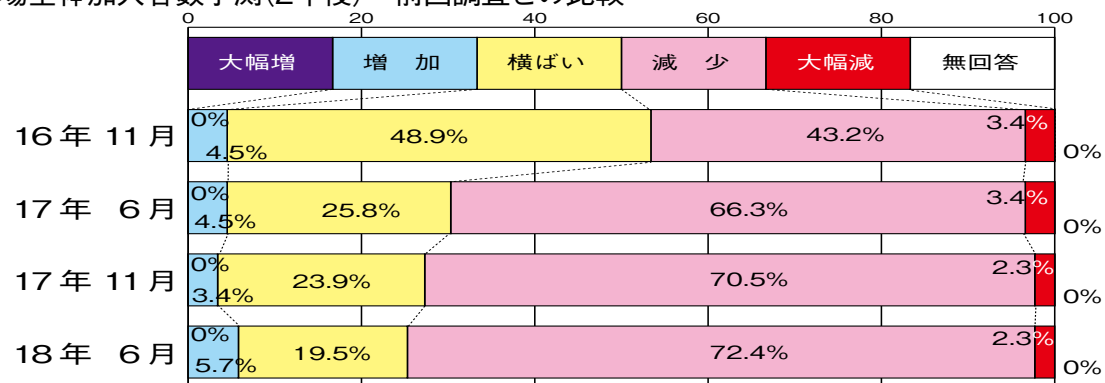
市場全体加入者数予測(現状)ー前回調査との比較



市場全体加入者数予測(1年後)ー前回調査との比較



市場全体加入者数予測(2年後)ー前回調査との比較

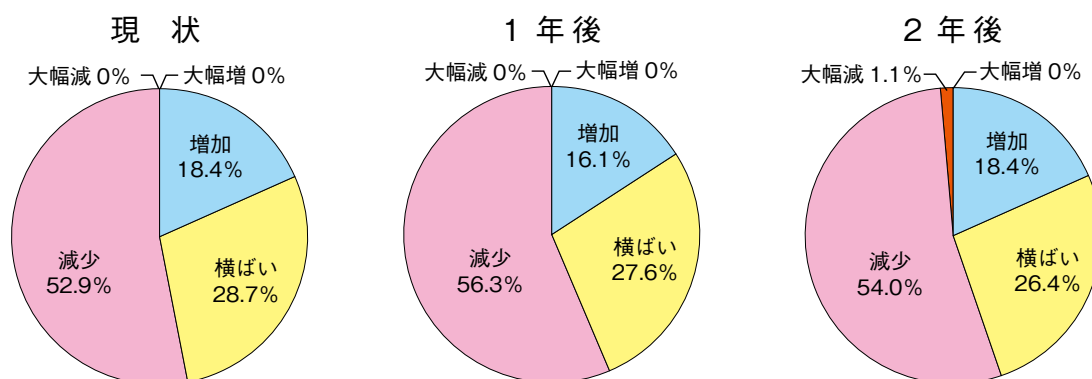


5. 視聴料収入予測

視聴料に関して、『現状』は、「大幅増」が前回（17年11月調査）はじめて0%となったが今回も同様となった。ただし「増加傾向」は前回の14.8%から18.4%となり低下に歯止めがかかった。「横ばい」は前回の26.1%から28.7%と微増。「減少傾向」は前回の59.1%から52.9%へと減っており、減少との回答が過半数ではあるもののこれまでの流れに変化が見られた。

『1年後』の予測では、「大幅増」は前回同様0%、「増加傾向」が前回の17.0%から16.1%へ、「減少傾向」が前回の56.8%（うち「大幅減」1.1%を含む）から56.3%へと微減であり、増加・減少がやや縮小予測の一方で「横ばい」が前回の26.1%から27.6%へと微増する結果となっている。

『2年後』の予測については、「増加傾向」が前回の23.9%から18.4%へ減少、「横ばい」が前回の21.6%から26.4%へと増加、「減少傾向」が前回の54.6%（うち「大幅減」2.3%含む）から55.1%（うち「大幅減」1.1%）へと微増であり、未来予測は現状よりやや厳しめとの見方となっている。



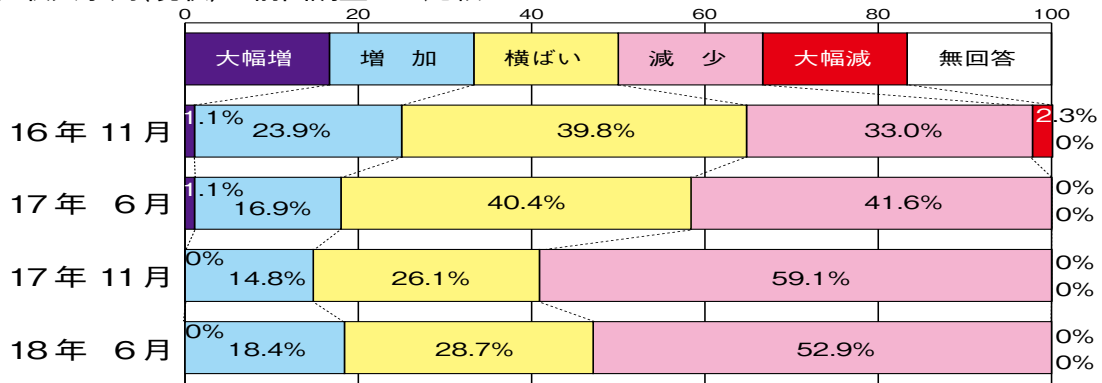
6. 視聴料収入・全体の推移

『現状』について、前々回（17年5月調査）・前回（17年11月調査）と比較すると、「増加傾向」と答えた事業者は前々回、前回水準より増えた（18.0%→14.8%→18.4%）。大幅増の続いた「減少傾向」との回答も前回より減少したが前々回よりは高い水準となっている（41.6%→59.1%→52.9%）。

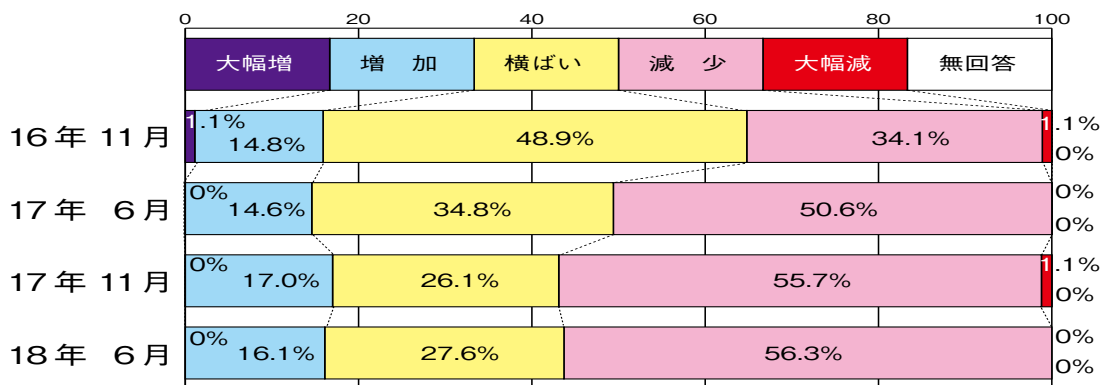
『1年後』の予測では、「増加傾向」という回答は前回より微減も前々回よりは多く（14.6%→17.0%→16.1%）、増え続けてきた「減少傾向」との回答も前回より微減も前々回よりは多いという結果となった（50.6%→56.8%→56.3%）。

『2年後』については、「増加傾向」という回答も前回より減少（18.0%→23.9%→18.4%）、一方「減少傾向」との回答は今回も微増が続いた（51.7%→54.6%→55.1%）。

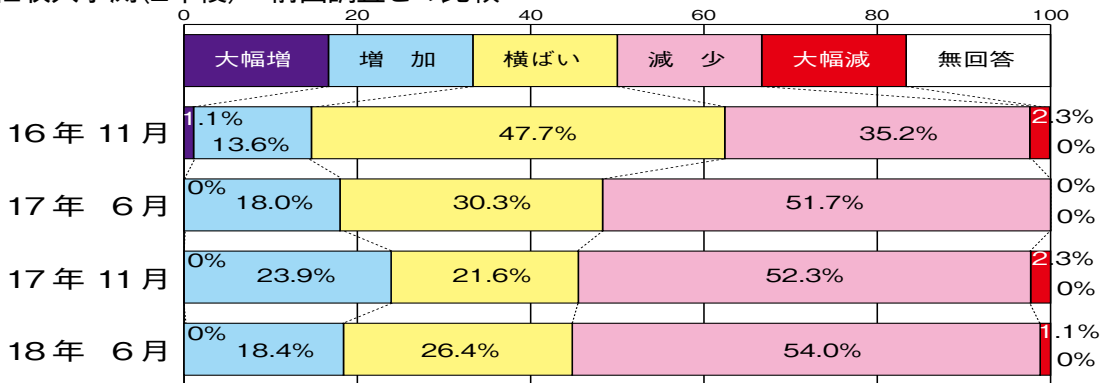
自社収入予測(現状)―前回調査との比較



自社収入予測(1年後)―前回調査との比較



自社収入予測(2年後)―前回調査との比較

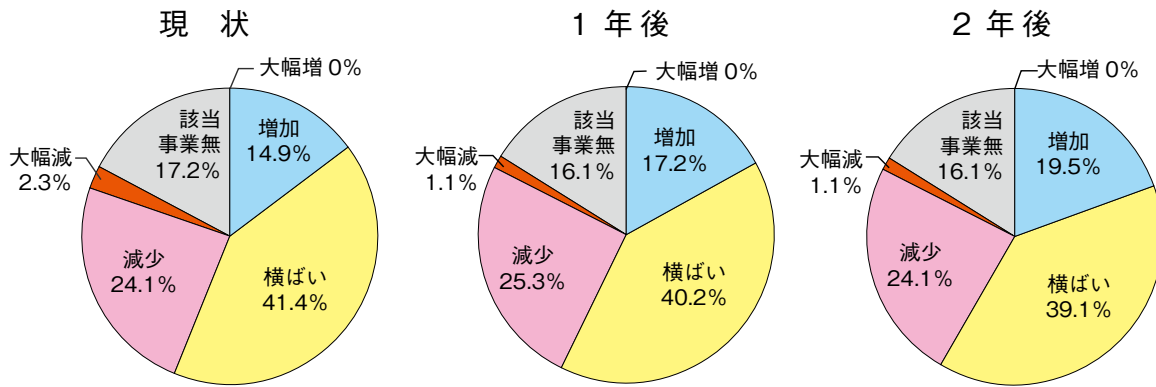


7. 広告収入の動向

『現状』では「横ばい」が41.4%と最も多く、次いで、「減少」が24.1%と「増加」の14.9%を上回っており、厳しい見方をする事業者の方が多い。

一方、今後に関しては、「減少」とみる事業者は、『1年後』25.3%、『2年後』24.1%とほとんど変動はないものの、「増加」は、『1年後』に17.2%、『2年後』19.5%と上昇しており、今後の広告収入については、前向きにみる事業者が増えている。

なお、「該当事業無」と回答した広告未実施の事業者が『現状』で17.2%存在していることについても留意されたい。

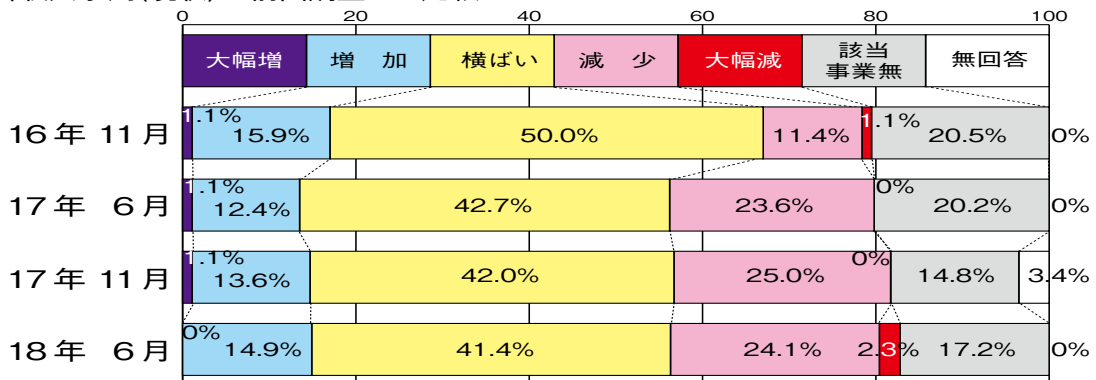


8. 広告収入予測の推移

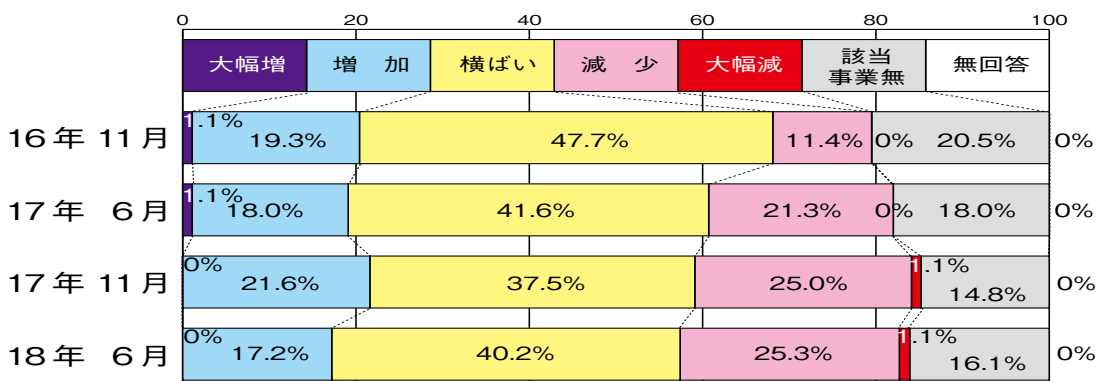
『現状』については、「横ばい」と回答した事業者は前回より微減。「大幅増」「増加」、「大幅減」「減少」の合計も、それぞれ14.9%、26.4%と前回並みの数値で、全体としては、17年6月から大きな変化はみられない。

『1年後』『2年後』では、前回まで4回連続で減少していた「横ばい」が僅かに上昇し、「大幅増」「増加」の合計が減少となった。一方、「大幅減」「減少」の合計は、『1年後』26.4%、『2年後』25.2%と、前回に引き続き高い数値となっており、今後に関しては、前向きに捉える事業者が引き続きいるものの、悲観的な味方をする事業者が次第に増加している。

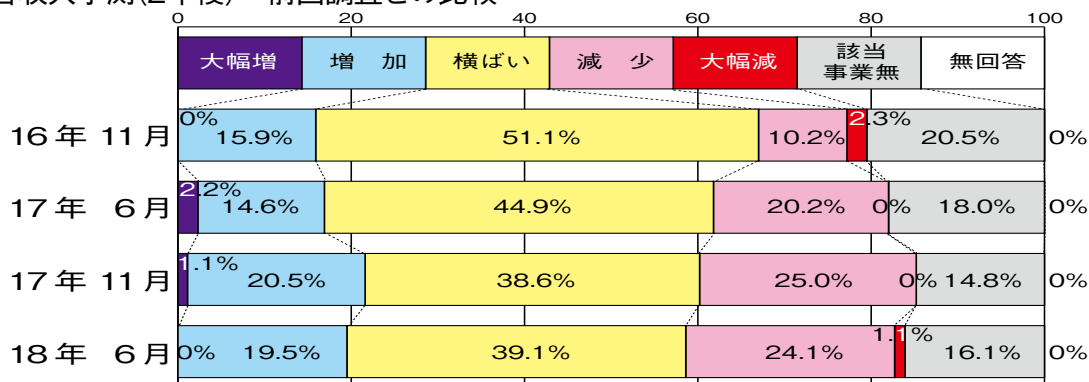
広告収入予測(現状)―前回調査との比較



広告収入予測(1年後)―前回調査との比較



広告収入予測(2年後)―前回調査との比較

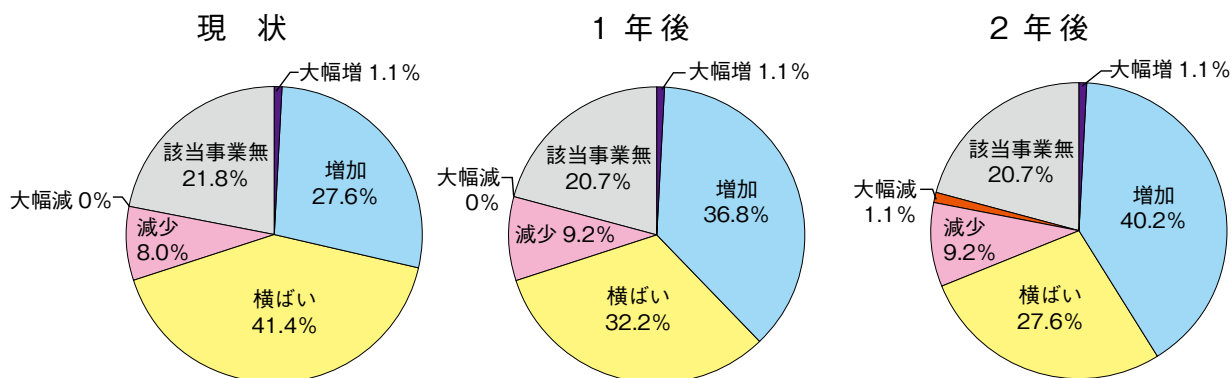


9. その他事業収入予測

『現状』では「横ばい」が41.4%と最も多く、次いで「増加」が27.6%、「減少」が8.0%となった。

「横ばい」とみる事業者は、『1年後』32.2%、『2年後』27.6%と減少する一方、「増加」は『1年後』36.8%、『2年後』40.2%と伸びており、『1年後』以降では「横ばい」を抜いて最も多い回答となっている。「減少」は『1年後』『2年後』とも9.2%と大きな変動はなく、将来に期待する事業者が多い結果となった。

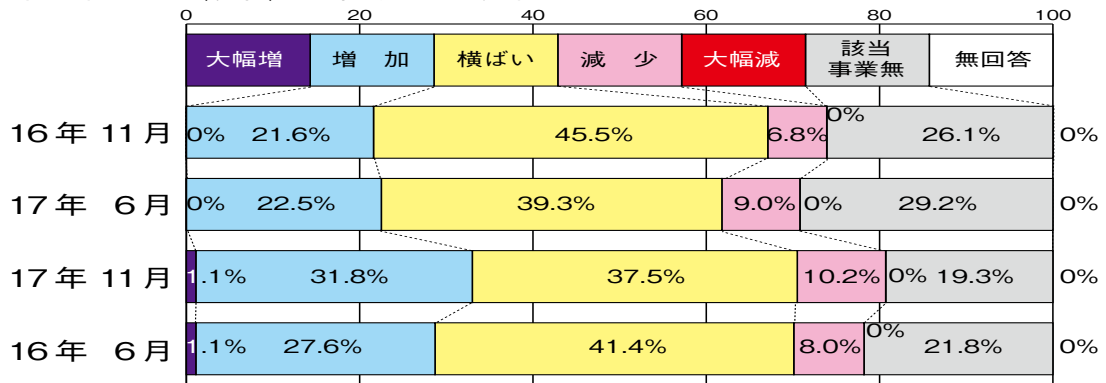
なお、「該当事業無」と回答した事業者が『現状』で21.8%存在していることについても留意されたい。



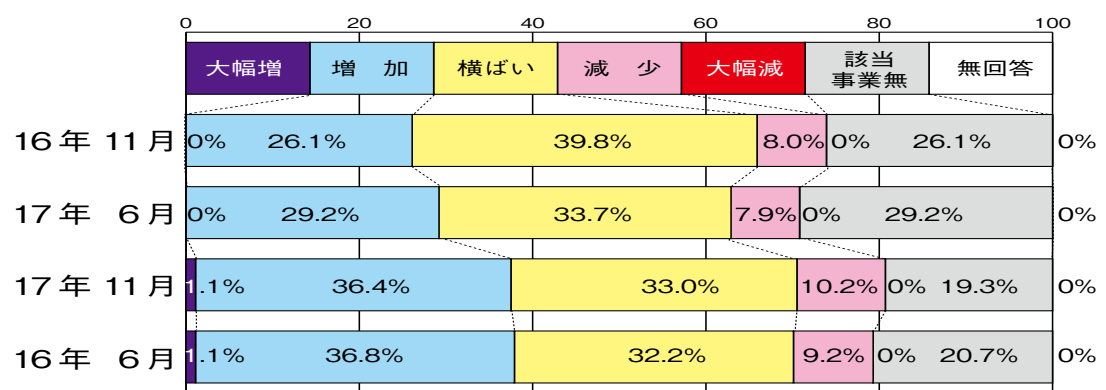
10. その他事業収入予測の推移

「横ばい」と見る事業者は、『現状』では41.4%と前回より上昇したが、『1年後』『2年後』は前回とほとんど変わらない結果となった。一方、「大幅増」「増加」の合計は、『現状』で28.7%と前回より4.2ポイント下げているが、『1年後』『2年後』は、それぞれ37.9%、41.3%といずれも前回とほとんど変わらない高い数値となっている。また、「減少」は、『現状』『1年後』が前回調査から下げ、『2年後』はほぼ前回並と低い数値のままで、その他事業収入の『現状』の見込みは「横ばい」とみる事業者が増えたものの、将来への期待は前回に引き続き高い結果となった。

その他の収入予測(現状)ー前回調査との比較



その他の収入予測(1年後)ー前回調査との比較



その他の収入予測(2年後)ー前回調査との比較

